



人権意識の高揚を！

国の内外で、人権尊重のための様々な取組が展開されているにもかかわらず、いまだにいじめや虐待、外国人や障害のある人などに対する偏見や差別など様々な人権問題が存在しています。また、最近では新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、感染者や医療従事者、これらの方々の家族などに対する偏見や差別といった様々な人権問題が発生するとともに、SNS上で他人を誹謗中傷したり、差別を助長するような情報を発信したりするといったインターネット上の人権侵害も深刻な問題となっています。

学校においては、人権教育の一層の充実を図り、社会生活や学校生活等における偏見やいじめ等の問題に気づき、それらの解決に向けて自ら取り組んでいこうとする実践力を育成する必要があります。そこで、本校においては、1学期から人権学習に取り組み、様々な差別について学習してきました。その一環として、人権週間期間中の12月8日（火）午後、講師を招いて「障害者差別」についての話をさせていただきます。また人権デーの12月10日（木）午後は、人権集会を開く予定です。

人権集会において、以下の4つの権利を中心に制定された「子供の権利条約」について話そうと考えています。子供の権利とは、生きる権利、いじめや虐待などから守られる権利など、子供が生き生きと過ごし、自立した社会性のある大人に成長・発達するために欠かすことのできない権利で、いわば、子供の基本的権利といえます。これらの権利は、この条約の制定により新たに認められるものではなく、生まれながらにして誰もが持っているものです。

また、しつけとは、家庭などで行う礼儀作法などの教育のことです。日常生活を送るうえで、あるいは、将来、社会で活躍するために、正しいしつけを受け、それを身につけることは、子供にとって必要なことで、保護者の大切な役割であると考えます。子供の権利としつけは相反するものではなく、むしろ、正しいしつけを受けることも、大切な子供の権利の一つであると考えられます。



生きる権利



育つ権利



守られる権利



参加する権利

～市新人大会（剣道男子）優勝～

11月14日に行われた南島原市新人大会剣道競技で本校男子チームが優勝しました。12月13日（日）に長崎市で行われる県大会での健闘を祈ります。

団体の部 優勝 有家中学校男子
個人の部 3位 藤原凰多(2年) 高田嘉人(1年)

～県駅伝大会で力走～

11月5日に行われた県駅伝大会で、本校女子チームは、昨年度の順位を上回り、島原半島内では最上位となる13位になりました。また、記録も市大会を約40秒短縮する素晴らしい記録でした。苦しい練習の成果を十分に発揮することができたと思います。力走した女子駅伝チームの活躍に感動をもらいました。

～美術展等で多数入選～

＜受信環境クリーン図案コンクール＞

○入選 西永和奏（1年） *NHK 長崎で放映済

＜薬物乱用防止推進ポスター＞

○入選 伊藤うらら（3年） 中村美咲（3年）

＜北村西望賞教育美術展＞

○特選 中村凧沙（3年） 内田雅貴（2年）

○入選 伊藤うらら（3年） 田中隆之祐（3年）

小谷美咲（2年） 中川剛琉（2年）

＜古野賞科学技術展＞

○入選 吉武心優（2年） 長谷川豊（1年）

12月の行事予定

1	火	生徒会役員選挙	
2	水		ノ一部活動
3	木		
4	金		
5	土		
6	日		
7	月	避難訓練	
8	火	人権講演会	
9	水		ノ一部活動
10	木	人権集会	
11	金	専門委員会	
12	土		
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		ノ一部活動
17	木	生徒集会	
18	金		
19	土		
20	日	家庭の日	ノ一部活動
21	月		
22	火		
23	水		ノ一部活動
24	木	終業式 生徒会役員任命(14:00下校)	
25	金	冬季休業日	
26	土		
27	日		
28	月		
29	火	休日	
30	水	休日	
31	木	休日	

※行事は変更になる可能性があります。

＜校長室の窓から＞

最近、アメリカ合衆国の大統領選挙が世間を賑わせていますが、初代大統領ワシントンの少年の頃のエピソードを紹介します。

桜の木を切った話は有名ですが、ワシントンは相当ないたずら坊主だったようです。困った父親は、ワシントンを呼んで、「これからおまえが悪いことをしたら、このキッチンに柱に釘を1本打ち込む。その代わりに、いいことをしたら、1本抜く。」と言いました。こうすれば、いたずらが減ると思ったのでしょう。しかし、なかなかいたずらはやまず、柱は釘だらけになりました。

やがてワシントンも考えるようになって、優しい心を見せたり人を助けたりするようになります。そのたびに父親は黙って釘を抜きました。減ったり増えたりが続いて、ある日、とうとう釘は1本もなくなりました。

父親はワシントンを呼んで、柱をなでさせ、「おまえは本当にいい子になった。ごらん、釘はもう1本もない。」ワシントンもにこにこしました。「だけどね。釘は1本もなくなったけれど、この釘の穴は残っているんだ。神様でなければ、この穴を元通りにすることはできないんだよ。」と言ったそうです。

ワシントンはそれから一生涯、抜けばいいのではない、釘を打ち込んではいけないという考えを心に持っていたといひます。